

「犬迫小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	鹿児島市立犬迫小学校
2. 学年・人数	5・6年生
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年11月下旬 犬迫小学校体育館 (2) 発表の日時・場所 令和6年12月1日(日) 地域ふれあい交流会 犬迫小学校体育館
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称 犬迫棒踊り（いぬざこぼうおどり） (2) 由来 犬迫踊りは、起源に関するいわれは特になく、昭和初期頃までは甲突川を挟んだ犬迫側と反対側では別々に踊っていた。昭和5・6年頃に合併して踊られるようになり、中断されたこともあったが、昭和49年5月26日の犬迫農協落成記念に復活した。 (3) 構成等 踊りは「六尺棒」と「三尺棒」を持ち、6人1組が2列で踊る。唄は二種類あり、同じ動きを繰り返す。服装は、モスの花柄の派手なタスキを1人2本使用し、浴衣は思いのものを着ていたが、現在では花柄の布地を1人1本使用し、浴衣を白に統一している。また、博多帯の上に刀を差すための帯をつけ、白いハチマキで頭の両側にツノを立てる。足元は黒靴下・白足袋・わらじを履き、手甲をつける。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	昭和49年5月26日に犬迫農協落成記念に復活してから、犬迫小の児童に伝承していきたいという意見もあったが、踊りを外部へ出すということで考えがまとまらず実現できていなかった。しかし、平成19年に再度話し合いを行った結果、犬迫小の児童への伝承を実現することができ、現在では地域の方々が犬迫小の児童に棒踊りとして、引き継がれることとなった。 学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、体育の表現運動の時間に位置付けている。また、高学年を中心として地域のイベントで披露する機会を設けている。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	 地域ふれあい交流会で披露
7. 感想・意見（参加児童・保護者・保存会・教員）	【児童の感想】 地域の人に協力してもらいながら、犬迫棒踊りを練習しながら、少しずつ踊ることができるようになるのが楽しかった。もっと上手になりたいと思ったので、また機会があれば踊ってみたいです。